Key Person21

2025 年度事業計画及び予算

【キーパーソン 21 の活動目的】

キーパーソン 21 は、一人ひとりの中にある、誰もが必ず持っている動き出さずにいられない原動力「わくわくエンジン®」を大切にする。主に子どもや若者に対して、自分を活かしていきいきと生きることができるよう、対話しながら原動力を引き出し、一歩踏み出し自分発で行動することを応援する。世代や地域、立場を越えて、あらゆる人たちがごちゃまぜになり、わくわくしながら学び育ち合う社会を共創造することを目指す。
（定款 目的 第 3 条より）

【2025 年度活動方針】

1．多様な企業や団体などとの協働を強化して、「自分の原動力に気づき、一歩踏み出し、未来をつくることのできる人」の創出に取り組み、日本の活性に貢献する。

2．一人でも多くの人がいきいきと仕事をして生きることができるように、プログラムの意味や意義、プログラムの活用方法を分かりやすく伝え、プログラムのコモンズ化の実現に向かう。

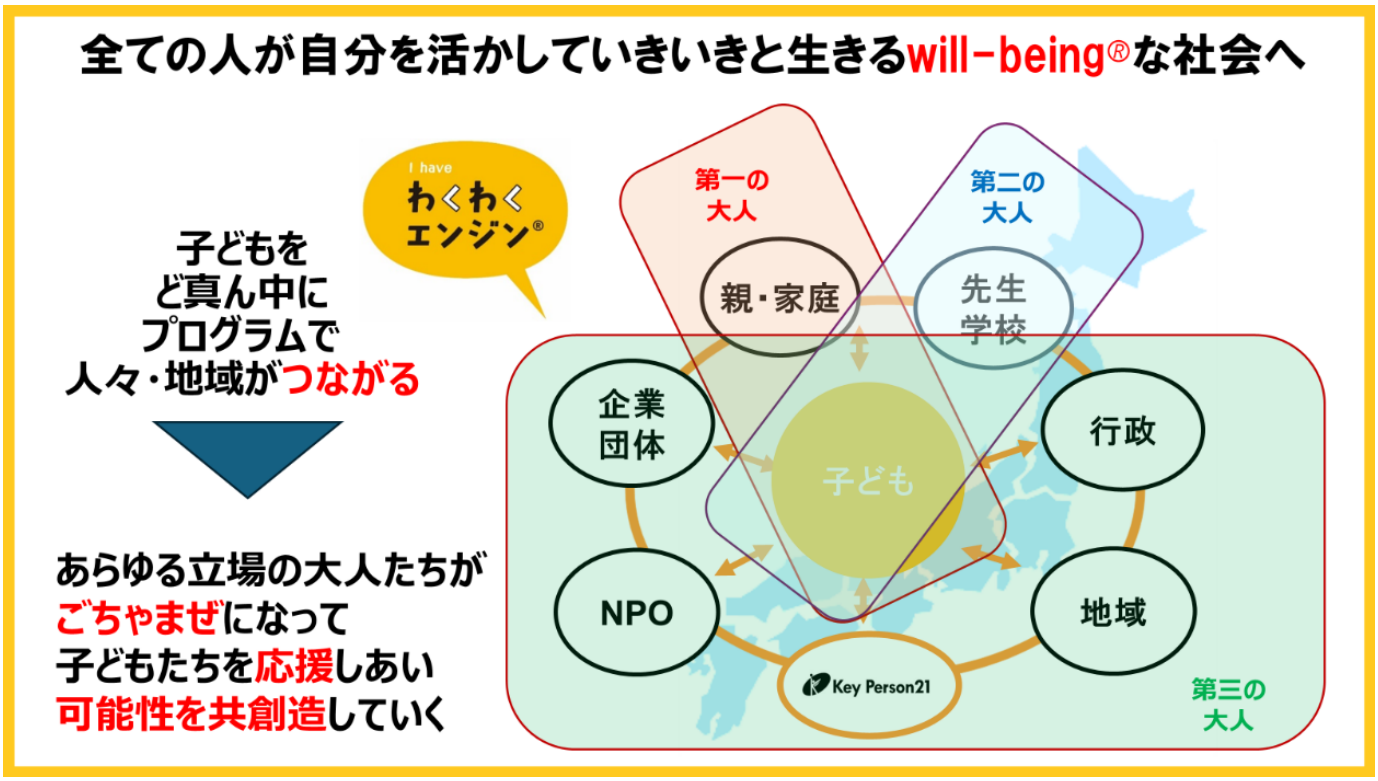
3．会員がのびやかに、自律的に活動できる組織の在り方を目指す。

【2025 年度の重点施策】

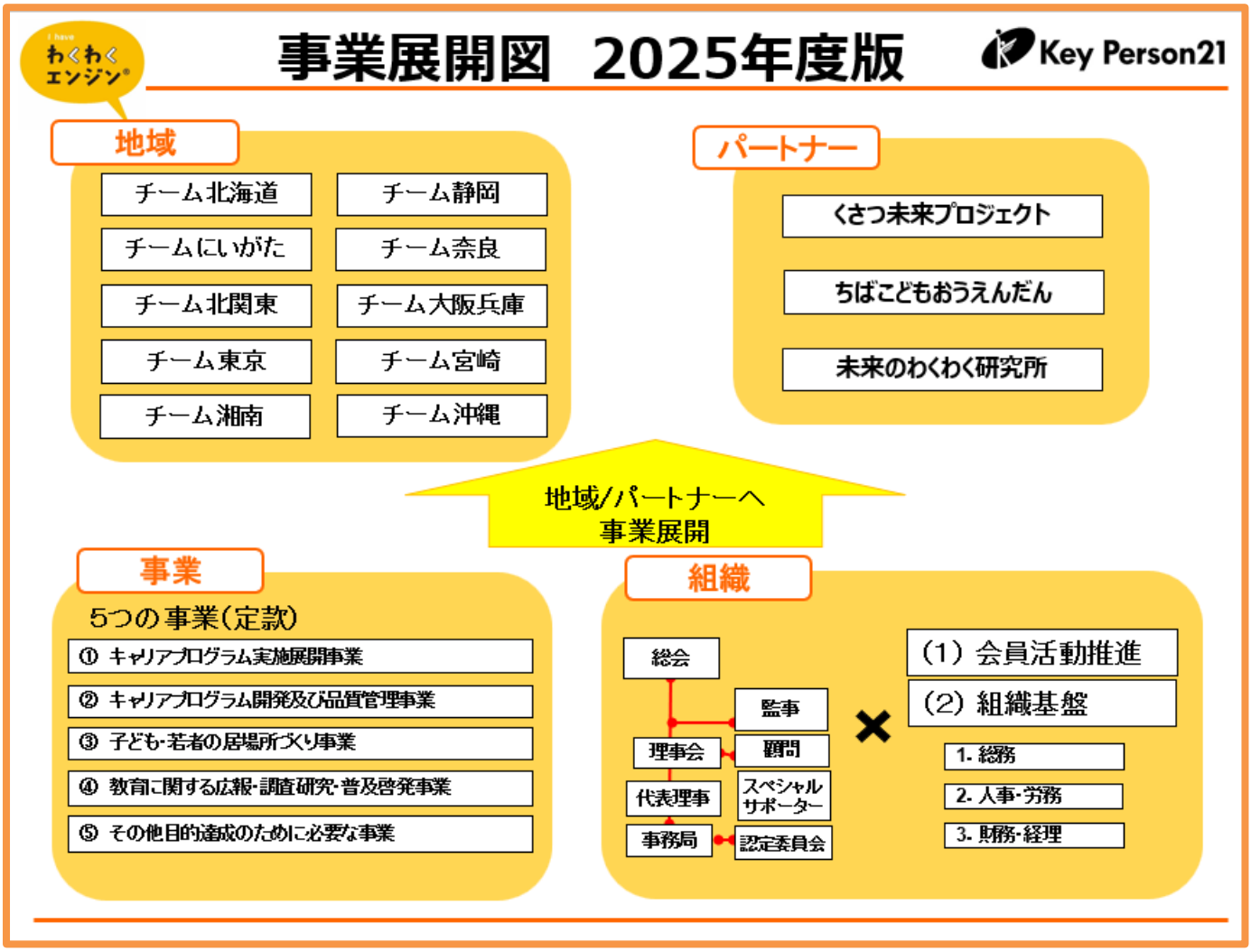
1．近しい想いを持っている企業、団体、行政、有識者、教育関係者などに積極的にアプローチし、協働できる仲間を増やす。

2．プログラムのコモンズ化を目指すに当たり、その意義を明確にし、公開の段階的計画を検討する。

3．①地域チームがのびやかに活動できる仕組みを検討する。
②会員が取り組みたいテーマのチームを発足しスタートする。
③個人パートナー（対面/オンライン）の仕組みを検討し、モデル的にスタートする。


全ての人が自分を活かしていきいきと生きるwill-being®な社会へ
I have わくわくエンジン®
子どもを
ど真ん中に
プログラムで
人々・地域がつながる
あらゆる立場の大人たちが
ごちゃまぜになって
子どもたちを応援しあい
可能性を共創造していく
第一の大人
第二の大人
第三の大人
親・家庭
先生
学校
企業
団体
行政
子ども
NPO
地域
Key Person21

【事業展開図】


I have わくわくエンジン®
事業展開図　2025年度版
Key Person21
地域
チーム北海道
チーム静岡
チームにいがた
チーム奈良
チーム北関東
チーム大阪兵庫
チーム東京
チーム宮崎
チーム湘南
チーム沖縄
パートナー
くさつ未来プロジェクト
ちばこどもおうえんだん
未来のわくわく研究所
地域/パートナーへ
事業展開
事業
5つの事業(定款)
① キャリアプログラム実施展開事業
② キャリアプログラム開発及び品質管理事業
③ 子ども・若者の居場所づくり事業
④ 教育に関する広報・調査研究・普及啓発事業
⑤ その他目的達成のために必要な事業
組織
総会
監事
理事会
顧問
代表理事
スペシャルサポーター
事務局
認定委員会
×
(1) 会員活動推進
(2) 組織基盤
1. 総務
2. 人事・労務
3. 財務・経理

2025 年事業計画　目次

【キーパーソン 21 の活動目的】
【2025 年活動方針】
【2025 年の重点施策】

（１）特定非営利活動に係る事業
【事業部門】
1．キャリアプログラム実施展開事業
1-1. 家庭教育
1-2. 学校教育
1-3. 社会教育
1-4. 地域チーム
1-5. パートナー
2．キャリアプログラム開発及び品質管理事業
2-1. プログラム開発
2-2. 認定委員会
2-3. プログラムのわくわくナビゲーター養成講座・研修
2-4. プログラムのわくわくナビゲーターを養成する講師の育成
2-5. 個人パートナーの仕組みづくり
3．子ども・若者の居場所づくり事業
3-1. 学習支援・居場所づくり事業（中原わくわく学習会「なかわく」通称）（川崎市）
3-2. 学習支援・居場所づくり事業（小杉わくわく学習会「こすわく」通称）（川崎市）
3-3. 寺子屋（川崎市）
3-4. 不登校対策の居場所づくりの検討
4．教育に関する広報・調査研究・普及啓発事業
4-1. 講演/セミナー/研修
4-2. 企業や地域のネットワークづくり
4-3. 広報
５．その他目的達成に必要な事業

【管理部門】
１．会員活動推進
２．組織基盤
2-1．総務
2-2．人事・労務
2-3．財務・経理
３．戦略

（２）その他の事業
1．寄贈品、グッズなどの物品販売
2．著作、出版物の制作・販売
3．会員のサークル活動支援事業

2025 年度活動予算書（案）

（１）　特定非営利活動に係る事業

【事業部門】

１．キャリアプログラム実施展開事業

収益 11,822　　費用 11,782（事業費 8,753　管理費 3,029）（単位：千円）

■25 年度のテーマ
・家庭教育、学校教育、社会教育において、子どもたちと関わる大人たちの理解促進を図る。
・わくわくエンジンから「やってみたい！」を応援される経験によって、一歩踏み出す勇気を持つことにつなげる取り組みを、「殻をやぶれ！わくわくたまご」プロジェクト、学びの多様化学校、不登校支援の居場所などで実施し、展開できるよう取り組む。

■25 年度の目標
・家庭教育：学校実施校の保護者向けと一般の親向けでアプローチの方法を変えて、親の理解促進を強化する。
・学校教育：教員や学校教育が抱えている課題の解決策として以下を提案する。
１．　教員の仕事軸としてわくわくエンジンが発見できるように、「先生のおもしろい仕事人」プログラムを提供する。
２．　不登校対策として、町田市立山崎中学校学びの多様化学校分教室「ゆめのき」において、「やってみたい！をやってみる」のプログラムを実施する。モデル化について検証する。
・社会教育：地域において、地元企業や団体と協働して「やってみたい！をやってみる」取り組みを実施し、全国で普及できるように汎用性があるようにガイドラインを作成する。

１-1. 家庭教育

（文部科学省による定義：親やこれに準ずる人が子どもに対して行う教育。すべての教育の出発点であり、家庭は常に子どもの心のよりどころとなるもの）

■活動項目
◆学校実施校の保護者に向けて、「わくわくエンジン®」のワークシート読み解き方を伝えるアプローチを行なう。
・保護者向け・PTA 向け講演を各実施校に提案する。
・保護者の理解を促進するために、ワークシート読み解き方の説明資料や動画（スマホ用縦型／短時間）を制作する。
・学校実施で家庭向けに配布するプログラムレターに、上記動画の QR コードを追加する。
◆一般の親に向けて、様々な悩みを解決するためにわくわくエンジン®の考え方を伝える。
・親向け、PTA 向け講演を増やす。
・全国の PTA に案内を郵送あるいは協議会などの情報網を活用して発信する。
（地域チームや会員がいる地域を優先して配信する）（※参考：全国 PTA の数：小学校約 2 万校、中学校約

1 万校、高等学校約 2 千校）
・おやじの会や不登校の親の会など、父親・母親の団体との連携を図る。
・進路に迷う時期の保護者に向けて Instagram などの SNS で発信する。
◆親子参加型プログラムの実施（対面開催/オンライン開催）

1-2. 学校教育

（文部科学省による定義：法律に定める学校：小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、大学、高等専門学校、盲学校、聾学校、養護学校、および幼稚園をいう）

■活動項目
◆学校教育や教員が抱えている課題の解決策の提案をする。
1. 教員の仕事軸としてわくわくエンジン®が発見できる機会提供を図る。
・「おもしろい仕事人がやってくる！」のプログラムのノウハウを活用する。
・プログラム実施の前には、研修やオリエンテーションを行なうことを徹底する。
・新潟市教育委員会主催の教員研修の事例を全国展開できるよう充実させる。
2. 不登校対策としての実践
・町田市立山崎中学校学びの多様化学校分教室「ゆめのき」でプログラムを実施する。
・学校の先生方と密に連携を取って進める。
・保護者座談会の開催により、保護者の抱える課題を理解し、プログラムを通じた子どもの原動力への保護者の理解を深める。

◆事務局実施予定　（※地域チームとパートナーの実施は 1-4 と 1-5 参照）
・川崎市立川崎中学校、川崎市立久本小学校などの公立学校において企業と協働で取り組む。
(JFE エンジニアリング株式会社、株式会社エヌアセット、株式会社シーエスデー、ジェクト株式会社など)
・カシオ計算機株式会社と 3 校での協働事業（10 年目）
渋谷区立渋谷本町学園、渋谷区立代々木中学校および羽村市立の公立小学校（カシオ羽村技術センター近辺）
・JA 全農の「酪農の夢コンクール」副賞として酪農系の高校へのプログラム実施（5 年目）
・東京都江東区立有明小学校／有明西学園での有明プロジェクト９年目（地域学校協働本部）
・私立かえつ有明中学校 1 年生での保護者および有明サポーターとの取り組み
・横浜市立小田中学校、横浜市立笹下中学校、寒川町立寒川東中学校、潮来市立延方小学校他

1-3. 社会教育

（文部科学省による定義：学校の教育課程として行われる教育活動を除いたもの。主として、青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動）

■活動項目
◆地域における「やってみたい！をやってみる」の実施
・全国で普及できるよう、実施しやすい仕組みをつくる。
他地域でのプログラム実施のためのガイドライン作成
・地元企業や団体と協働する。

協賛企業から共感を得るための営業資料の充実
・かながわサイエンスパークでの募集型実施開催
・川崎市内での居場所型実施の検討
・チーム東京の杉並区助成による実施

◆第三の居場所における実施
・学習支援・居場所づくり事業（中原わくわく学習会・通称「なかわく」）（川崎市委託事業）において、4 日間にわたり個別対応で実施
・不登校対策としての居場所において、子どもの意欲醸成のためのプログラムの実施を検討する。
・フリースクールでの実施を検討：光の森学園（新潟市）など

1-4. 地域チーム

地域チーム	2025 年度計画
チーム北海道	・地域の子ども食堂、フリースクール、地域活動団体などと連携・コラボして、実施できるようネットワークづくりを開始 ・SNS の活用、小規模ワークショップで活動の理解者拡大を計画
チームにいがた	・昨年度好評だった教職員研修を継続。選択研修に加え、若手 3 年目研修についても事務局との協働プロジェクトで行なう予定。新潟市内教員の理解を促進する。 ・新潟市立大形小学校実施（9 年目） ・地域での信頼を重ねながら、これまでの実施校との関係を継続し、実施を調整 ・長年のチーム活動によってメンバーが増加。実施校増加となった今、改めてチーム形成に尽力したい。
チーム北関東	・さいたま市立植竹中学校と協働実施、保護者理解促進のための講演会開催(4 月開催) ・地域団体との共催で参加者募集型プログラム実施をやりたい。そのためのプログラム紹介説明会を開催したり、関心を持った人が参加しやすいようにチームのホームページを再整備するなどツールを整える。 ・各メンバーの想いを語り合う場をリアルとオンラインでハイブリッド開催したい。
チーム東京	・参加者募集型親子実施の継続 ・杉並区の助成金を得て、わくわくエンジン®から発動する「やってみたい！」を応援するプロジェクト（すぎなみ「わくわくエンジン®」発進プロジェクト）を実施 ・足立区立渕江中学校と実施継続（2 年目） ・渋谷区立鉢山中学校実施 ・その他、新規実施現場を増大のため、プロジェクトマネージャーを増やしたい。
チーム湘南	活動休止中
チーム静岡	・菊川市市民協働センターとの協働でプログラムを実施（6 年目） ・社会福祉協議会、子ども会など複数年継続しているところと協働し、プログラム実施に向けて調整する。 ・平日の学校実施はメンバー集めが大変なため、フリースクールや子ども食堂など親和性が高いと思われるところへアプローチし、小規模開催を目指す。

チーム奈良	・地域活動団体の協力で募集型親子実施予定 ・小規模学校へアプローチする。
チーム大阪兵庫	・保護者サポーターやパートナーくさつ未来プロジェクトと共に、私立関西大倉中学校と協働実施（4 年目） ・株式会社高栄ホームの寄付や協賛により、大津市立富士見小学校において実施（4 年目） ・これまで通り、メンバーがやりたいことを提案し合い、やれるように協力し応援するチームのありかたを推進する。
チーム宮崎	・宮崎市立本郷小 PTA 家庭教育学級で親子実施を企画 ・宮崎市内にてわくわくナビゲーター養成講座を 9 月開催
チーム沖縄	・若者支援の居場所での継続実施 ・各地域施設へのアプローチを継続し、実施現場を増やす。 ・必要としている人に必要なタイミングでプログラムが届けられるよう、想いや活動への共感者を増やす。

1-5. パートナー

■活動項目

◆認定 NPO 法人くさつ未来プロジェクト：

・ロケット教室と連携することで、自分を知るプログラムを体験活動に活用している。

◆NPO 法人ちばこどもおうえんだん：

・地域の定時制高校に対し、中途退学者を減らす目的で活用している。

◆一般社団法人未来のわくわく研究所：

・小学校、中学校での実施を検討

・より充実したサポーター体制を築くため、サポーター研修 2 回、メイン研修を 1 回開催予定

・宇和島市の近隣鬼北町でも同様の取り組みを検討

2．キャリアプログラム開発及び品質管理事業

収益 3,639　　費用 3,626（事業 2,694　管理 932）　（単位：千円）

■25 年度のテーマ

プログラムのコモンズ化（公開）

■25 年度の目標

・プログラムの公開に向けて、学びの機会や意見交換の場を設けることからスタートする。

・講師養成（3 年間で 6 名育成）

・「おもしろい仕事人がやってくる！」のプログラムのテキスト作成による汎用化

2-1. プログラム開発

■活動項目

◆プログラム公開に向けた準備

会員、専門家、関係者、理事、事務局による学びの機会や意見交換の場をつくり、公開に向けての段取りや作戦を立てる。（2 年目：出版物や HP の更新、検証、見直し　3 年目：普及フェーズ）

◆プログラム「おもしろい仕事人がやってくる！」テキスト作成による汎用化

地域チームが活用できるようにテキスト化し講座を開催する。（先生が仕事人となるバージョンを含む）

◆「やってみたい！をやってみる」のプログラムが全国どこにでもある地域の居場所で展開できるモデルをつくる。

・「殻をやぶれ！わくわくたまご」事業を全国に展開できるようガイドラインを作成する。

◆不登校対策としてのプログラムの開発を行う。

◆わくわくナビゲーターの「引き出し力」を強化する講座をオンラインで開講

（対象：「すきなものビンゴ＆お仕事マップ®」わくわくナビゲーター養成講座の「引き出し」講座修了者）

2-2. 認定委員会：

■活動項目

◆認定委員会の開催 2 回以上

◆1 級認定のためのフィードバックの仕組みづくり

2-3. プログラムのわくわくナビゲーター養成講座・研修

■活動項目

◆わくわくナビゲーター養成講座の開催：首都圏<対面>

・トレーニング 1「体験」2 回：9 月 27 日、2 月 14 日

・トレーニング 2「引き出し」2 回：9 月 27 日、2 月 14 日

・トレーニング 3「メイン」2 回：9 月 28 日、2 月 15 日

◆わくわくナビゲーター養成講座の開催：全国<対面>

・トレーニング 1「体験」2 回：4 月 28 日@札幌、9 月 20 日@宮崎

・トレーニング 2「引き出し」2 回：4 月 28 日@札幌、9 月 20 日@宮崎

・トレーニング 3「メイン」2 回：4 月 29 日@札幌、9 月 21 日@宮崎

◆オンラインわくナビ育成コースの開催 1 回

2-4. プログラムのわくわくナビゲーターを養成する講師の育成

■活動項目

◆講師養成

一人でも多くの人の人生をわくわくさせられるように、3 年間で講師 6 名を育成し、プログラムの考え方や普及を促進する。

◆プログラムの深い理解者としての 1 級認定者の育成

2-5. 個人パートナーの仕組みづくり

■活動項目

◆個人会員が活躍できるプログラムとしての仕組みの開発

・対面とオンラインの 2 つのバージョンで実施できるよう、検討し仕組みをつくる。

・1 年目はモデルとして実施にトライする。（2 年目：見直し、認定、本格実施）

3．子ども・若者の居場所づくり事業

収益 20,153　費用 20,085（事業 14,922　管理 5,163）（単位：千円）

■25 年度のテーマ

学校外の学びの場において、「わくわくエンジン®」をベースに子どもが自分軸をもって進路選択する力をつける。

■25 年度の目標

学習に限らず、就労支援の一環として地域の循環を促進する。

3-1. 学習支援・居場所づくり事業（中原わくわく学習会・通称「なかわく」）（川崎市委託事業）

■活動項目

◆「学習支援・居場所づくり事業」として川崎市より「中原わくわく学習会」を受託・継続する。

・一人ひとりに寄り添った丁寧な学習サポートを継続する。

・リアル対面とオンライン学習の二本立てで行うことを継続する。

・学習内容は、学校教育における学習にとどまらず、学校ではできない、「わくわくエンジン®」の発見、お金の教育、個々の要望に合わせた経験など多岐にわたる。

・新城教室 91 回、小杉教室 91 回、二か所において合計年間 182 回開室。

◆学習会の卒業生が「学習サポーター」になったり、就労支援としての機能も一部において果たすチャレンジを行うことで、地域において教育の機能と居場所の機能に就労支援機能を加える。子どもの成長に合わせて川崎市中原区地域において循環するモデルづくりを継続する。

◆希望者（中学生）に対し、おやつ以外に補食を提供する。

3-2. 学習支援・居場所づくり事業（小杉わくわく学習会・通称「こすわく」）（自主事業@川崎市）

■活動項目

◆「小杉わくわく学習会」を維持継続する。

・助成金と寄付で運営する。

・通常開室 46 回/年、不登校対策としての開室 98 回/年

・経済的困難があったり、家庭環境に問題があったり、学校に足が向かない子どもの学習と居場所としての

機能を維持継続する。
・進学に備える子や、高校卒業を目指す子など、一人ひとりに寄り添った学習方法や進路サポートを継続する。

3-3. 寺子屋（川崎市委託事業）

■活動項目
◆川崎市からの委託事業「寺子屋今井」の体験活動を継続する。
・全６回/年（場所：川崎市立今井小学校体育館）
・地域のシニアの方に講師になっていただき実施する。（「パタパタ飛行機作り」など。）

3-4. 不登校対策の居場所づくりの検討

■活動項目
◆不登校経験者や保護者などとの意見交換会を開催する。

４． 教育に関する広報・調査研究・普及啓発事業

収益 611　費用 609（事業 452　管理 157）（単位：千円）

■25 年度のテーマ
多様な企業や団体、有識者などとの協働により、普及と創発につなげる。

■25 年度の目標
・情熱や意欲に関する研究者、専門家と意見交換を行う。
・PTA や教員向け、企業人向けなど、講演活動を増やす施策を打つ。

4-1. 講演/セミナー/研修

■活動項目
◆新潟市教育委員会主催教員研修：希望選択研修 3 講座、必修若手 3 年目研修
◆教員研修：先生がおもしろい仕事人として自分を語る
◆保護者 PTA 向け講演
◆企業向け研修：研修会社と連携し、DX 研修への組み込みを検討

4-2. 企業や地域のネットワークづくり

■活動項目
◆企業や諸団体とのネットワークを広げ協力者を増やす。（経営実践研究会、ロータリークラブなど）
◆教育改革や社会貢献活動に関心のある企業との連携や協働を増やす。

◆「やってみたい！をやってみる」のプログラムの社会的価値を企業に訴求する。
◆共感者や寄付者を増やす。（企業版ふるさと納税など）
◆情熱や意欲に関する研究者、専門家と意見交換を行い、活動の意味を裏付ける。

4-3. 広報

■活動項目
活動を”意味づけ”し「適切な文脈」に「適切なタイミング・手段」で「刺さるメッセージを届ける」ことにより、人々の行動を誘発し、大きな波を作っていく。
◆めざす世界観をインパクトデザインとして可視化し、一枚絵で活動が伝わるように作成し、HP や講演/イベント時に掲示したり配布する。（andPUBLIC との共同制作）
◆大人にも、子どもにも、生きづらさを抱えている人にも活用できる汎用性のあるプログラムゆえに雑多になりがちな情報提供をハッシュタグやアイコンを用いて、整理しわかりやすく表示する。
◆より多くの人にわくわくエンジン®活用方法を知ってもらうためのテーマ別、ターゲット別などを整理して公開方法を検討（「わくわくエンジン®活用講座」「わくわくエンジン®図鑑」とも連動）
◆外部向け活動説明会の開催について、テーマ別、ターゲット別などのより効果的な方法を見直す。
◆プログラムコモンズ化に向けて、広報として内容/手段/掲載メディアなどについて調査検討する。
◆広報・情報発信ガイドの作成（組織内）
◆一般に向けて理解を促進するために、視聴者が短時間で見れる SNS を活用する。（TikTok や Instagram の Reels、YouTube Shorts など）
◆教育の改革や社会貢献活動に関心のある企業にむけた記事の作成と発信し（coki）、企業からの寄付や協賛を増やす。
◆企業版ふるさと納税やマンスリーサポーターなど、寄付拡大のための広報戦略として企業が寄付をする価値を明文化する。
◆広報人材の拡充により、広報効果を上げる。
◆サントリーホールディングス株式会社からの 2 年間の出向者の経験価値を抽出し、広報や営業活動に活用する。
◆プログラムのコモンズ化や、のびやかな会員活動ができる組織への変革に伴い、Web サイトのリニューアルを検討

5. その他目的達成に必要な事業

特になし

【管理部門】

1．会員活動推進

■25 年度のテーマ
発想力豊かで伸びやかな活動へ

■25 年度の目標
・発想力豊かで伸びやかな活動を推進する
・会員の交流を促進しエンゲージメントを高める
・会員一人ひとりの思いや「やりたい」を活動へ繋げる

■活動項目

【会員による発想力豊かで伸びやかな活動の推進】

◆地域チーム活動の推進
・チームの望む在り方について意見交換をする。

◆テーマ活動の推進
・活動したいテーマを募集し、やりたいメンバーで意見交換を開始する。

◆個人会員が活躍できるプログラムと仕組みの開発
・会員が個人で地域の子どもたちにプログラムを行うことができるような仕組みをスタートする。
・2024 年度に実施したアンケート結果を分類し、事業全体の概略の組み立てとプログラムの内容を計画。
・2025 年度前期に実施希望者と意見交換をしながら、モデル実施をスタート。
・検証と改善を行い 2026 年度より本格始動する。

【会員交流促進によるエンゲージメント向上】

◆「キーパーソン 21 の日」の開催（毎月 21 日）
・会員の活動の参考になるテーマや、学びとなるようなコンテンツを企画する。
・新入会員とのコミュニケーションを充実させる。「キーパーソン 21 の日！」における新入会員の紹介を継続する。

◆キーパーソン 21 以外の日程においても、会員が自身を紹介し合い、会員同士がもっと知り合う機会をオンライン/リアル問わず増やしていく。

◆全国会員がオンライン上で交流や情報交換のできる、透明性の高い場としての discord の使用を継続し、情報共有や活動の活性化を図る。
・discord の運営メンバーを募る。
・わくわくナビゲーターのスキル向上のための学びの場として活用する。

◆全国会員リアル交流会
・第 3 回：2026 年 1～3 月@茨城県潮来市にて（潮来市小学校にて実施予定あり）
・第 4 回：2026 年 9 月@北海道にて

◆会員による放課後クラブを創設する。

2．組織基盤

■25 年度のテーマ
目指す社会を実現するために、会員が活動しやすい組織基盤を整える。
感謝と応援のコミュニケーションを増やし、一人ひとりがやりがいを実感する NPO になる

■25 年度の目標
・制度やルールのスムーズな運用により、活動が進めやすくなることを目指す
・事務局スタッフの Well-Being/Will-Being の向上

2-1. 総務

■活動項目
◆既にある規約やスターターセットの更新を検討する。

2-2. 人事・労務

■活動項目
◆採用計画
・プロジェクトマネージャー、経理、地域サポート、広報、わくたまスタッフの増員
◆予算立案・業務配分の仕組みを活動の変化に合わせて再整備
・25 年度人件費は 24 年度実績の工数に基づき見積もりで執行管理する。
・毎月の人件費支出計画を立案し、予算と実績の確認を行う。
◆サントリーホールディングス株式会社より出向者 1 名を 2 年間受け入れ（2 年目）
・同様の出向者を他企業に提案する。
◆勤怠管理の集計方法の改善
◆事務局スタッフの Well-Being/Will-Being の向上
・役割期待確認の改善
・対話の機会をさらに増やすために、One on One Meeting などにトライする。

2-3. 財務・経理

■活動項目
◆財務担当/寄付担当をアサインし、活動計画する。
収入拡大要素
・神奈川県の企業版ふるさと納税の拡大営業の実施
・寄付のインフラを調査
・企業の研修事業による収入拡大
・チャリティ T シャツなどの寄付活動

◆予算と実績の月次管理の向上
・月度単位の収入と支出の計画立案と実績確認
・翌月精算の徹底
◆経理業務の外注化検討とそれに伴うスタッフの入力精度向上
勘定科目、事業部門コード、補助科目、費用科目を選択して経費精算する。
◆地域チームにおける会計記録の改善
・地域チームの分担金と源泉徴収の仕組みの見直し

３．事業戦略

■活動項目
◆プログラムのコモンズ化
・コモンズ化により、実現化したいありたい姿を明文化する。
・コモンズ化を検討し多角的な観点から計画を練る。
・会員/地域チーム/テーマチーム/スペシャルサポーター/有識者等とともに、意見交換会を開催する。
・広報計画としてメディア、出版、動画、SNS 発信、イベント等の計画を立案する。

◆発想力豊かで伸びやかで自律的に活動できる組織の在り方を目指す。
・組織のありたい姿を明文化する。
・なりたい組織になるために、必要なことを検討する。
・守るべきルール、資金、運用、連絡の仕方/方法などを検討する。
・会員/地域チーム/テーマチーム/スペシャルサポーター/有識者等とともに、意見交換会を開催する。

（２）　その他の事業

1．寄贈品、グッズなどの物品販売
2．著作、出版物の制作・販売
3．会員のサークル活動支援事業

特になし

※「わくわくエンジン」、「すきなものビンゴ＆お仕事マップ」は、特定非営利活動法人キーパーソン 21 の登録商標です。